

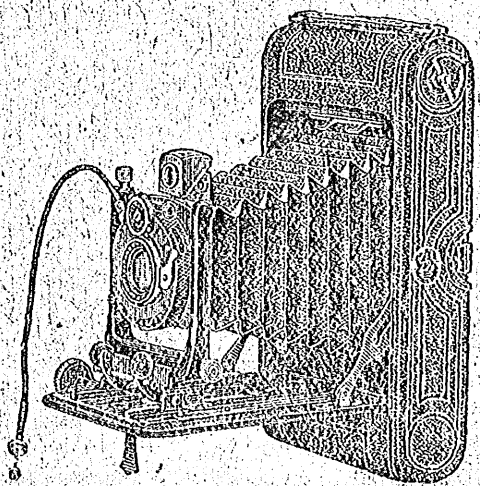
Title	銀行手形引受制度及実行論
Sub Title	
Author	三宅, 嘉十郎
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1919
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.13, No.9 (1919. 9) ,p.1175(73)- 1184(82)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	雑録
Genre	Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19190901-0073">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19190901-0073</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

# 寫眞機械

## 附屬一式



芝區櫻田本郷町電車停留所角

澤渡商店

電話新橋千百〇九番  
振替東京二七六八五番

### 雜錄

#### 銀行手形引受制度及實行論

三宅嘉十郎

##### 目次

- 一、手形引受制度と金融市場
- 二、銀行引受手形の種類
  - A、荷爲替手形 B、商業信用手形 C、金融手形
- 三、日本銀行の提唱せる銀行引受手形
  - A、貿易金融市場——イ、輸入手形 ロ、輸出手形
  - B、金融手形
- 四、銀行引受手形實行論
  - A、引受手形と爲替資金の調達及金融市場との關係
  - B、市中銀行の輸入手形の引受及實行の程度
  - C、貿易金融改善の根本方策
  - D、内國手形の引受

第十三卷 (一一七五)

雜錄

銀行手形引受制度及實行論

第九號

七三

##### E、手形引受と工業金融

##### F、結論

銀行引受手形に就ては本年四月井上日本銀行總裁の提唱以來日本銀行は固より正金銀行に於ても之が説明及實行獎勵に努め、或は銀行及貿易業者に對して説明書及實行案を配布し、或は講演を爲す等至らざるなく、又新聞にも雜誌にも論及せられれば茲に更めて言ふべき事なきも、唯金融の事に従ふ者の一人として之が實行に就て一二の希望を述べんと欲す。固より断片的的研究にして首尾一貫せる論文にあらず、主意は第四節銀行引受手形實行論に在りて其の他は唯讀者の了解に便ならしむる爲の記述したるに過ぎざるなり。

##### 一、手形引受制度と金融市場

手形の銀行引受制度の本質は引受銀行の信用を利用して資金貸借証書的一種たる手形に絶大の信用を與ふるに在りて、之に依りて從來信用程度の區々不明なりし雑多の手形を成可く一定の基準に合する所謂標準手形スタンダードビルと化し以て手形の割引市場を形成するに在り。中央銀行の存在は

割引市場の形成上重要な要素たるは勿論なりと雖も、銀行の手形引受に依りて確實なる標準手形を市場に供給するにあらざれば、割引制度の成立は到底全きを期すべからざるなり。而して今日の如く一方に巨額の要求拂の預金債務を負ひ、他方貸付割引を爲さざるべからざる商業銀行組織に於ては、割引制度の成立なくば決して信用組織の完璧を望むべからず。故に英國の如きは中央銀行制度の確立と共に早くより割引市場發達し割引業者及びビル・ブローカーは市中銀行のコールを吸収して引受業者、外國爲替銀行及び其他銀行の引受たる手形を買入る。而して市中銀行は資金の必要に應じてコールを回收し、割引業者及びビル・ブローカーは手形を英蘭銀行に齎らし再割引に依りて資金を得るを以て金融逼迫するも何等支障を感せず。又獨逸及び佛蘭西等に於ては一八七〇年頃迄は未だ銀

行引受手形の流通を見るに至らず、手形割引は流動性を缺ける貸付に過ぎざりしが、漸次銀行引受制度の發達と共に割引市場成立するに至り、市中銀行は手形の引受を爲すと共に買入を爲し、資金の必要あるや直接中央銀行に就て手形の再割引を依頼し之に依りて所要の資金を得らるゝこととなり居れり。米國に於ては數年前迄銀行の手形引受行はれず、従つて銀行の割引は流動性を缺ける約束手形に依る貸付に過ぎずして、且中央銀行の存立せざりし爲め割引制度は全然之を認むることを得ざりしなり。然るに一九〇七年の恐慌以來割引制度の弾力ある信用組織なるを覺るに至り、銀行制度を改善して中央銀行制度を採用すると共に銀行の手形引受を奨励し、且聯邦準備銀行をして銀行引受手形を買入れしむることとし以て割引制度の發達を圖りしかば、今日に於ては英獨佛諸國と同様に割引

市場の發達を見るに至りたるが如し。故に銀行の手形引受制度は中央銀行組織と相俟て割引制度の發達を圖り最も進歩せる近代的金融組織を得るに必要不可欠要素たるなり。

從來の我國に於けるが如く金融市場の規模狭少にして、預金、貸付共に僅少なる場合に在りては普通銀行は資金の必要に應じて國債擔保を以て日本銀行より融通を得以て急に應ずるを得たりと雖も、今日の如く預金、貸付の膨脹し來りては歐米諸國と同様銀行引受に依りて標準手形を供給し以て割引組織の完成を期せざるべからず。是れ日本銀行總裁が銀行引受手形を奨励し割引組織の發達を促さんとする所以なるべし。割引市場存在せざれば割引の標準利率即ち市場利率なるものなく市中金利の標準は遂に求むべからざるなり。我國の如き大阪に於ては紡績手形東京に於ては砂糖手形の如きは從來一流手形

として認められ、其割引利率は市場最低利率を適用せられ標準手形たるの觀を呈せしと雖、其の出廻額未だ多からず従つて市場利率を形成するの域に達せざりき。這次開戦以來我國金融市場の實力は著しく増大し、コール取引額亦大に増加したるも一方投資すべき一流手形の多からざりし爲め割引市場の發達を見るに至らず。手形割引は名は商業手形割引なるも其の多くは割引依頼人の信用を基礎とする貸付に異ならずして、其の割引利率の如きも亦た貸付利率と何等選ぶ所なきなり。本來割引利率は手形署名人の信用如何と云ふよりも、寧ろ市中金融の状況に依りて變化すべきものにして、従つて嚴密に言へば我國にはデスカウント・レートなるもの存在せず、今日デスカウント・レートを稱するものはローン・レートに外ならざるなり。然るに若し今日提唱せらるゝ所の銀行引受手形の盛行を



見るに至らんか、標準手形の供給増加し今日コ  
ールに放出さるゝ資金及貸付資金の一部は之に  
向つて投せらるゝこととなり、漸次割引市場の  
發達を見るに至り我國の採用せる中央銀行組織  
は茲に完備の域に達すべきなり。かくて割引組  
織の備はるに於ては金融の疏通圓滑に行はれ、  
従つて金利の平準も低下し外國貿易は固より一  
般の商工業共に低廉なる資金を利用すること大  
得るに至り、我國經濟界の發展に資すること大  
なるや言を俟たざるなり。然らば銀行の手形引  
受は如何にして盛行を期し得べきや。固よりか  
くの如きものは商取引自然の發達に俟つべきも  
のにして今俄に其の發達を望むべからず。倫敦  
が常に三億乃至五億磅の引受手形の流通を見つ  
ゝある、又獨逸が戰前貸出の三割餘を銀行引受  
手形の割引に依りて爲せると云ふが如き皆數十  
年の長日月を経て自然に發達したるものなるは

勿論なりと雖、同時に之を助長する方法をも  
講ずると否とは其發達に大なる影響あるや勿論  
にして、今日米國が二三年間に於て三四億弗の  
引受手形割引を見るに至りしは全く同國當路者  
の之が發達を促進せるに依ること甚だ大なり。  
我國に於ても從來銀行の手形引受を提唱せる  
ものなきにあらざりしも、常に一種の理想論と  
して一般金融界より大なる注意を拂はるゝに至  
らざりき。然るに今次の戰爭以來我が經濟力の  
發展と加ふるに米國に於て手形引受制度の連り  
に唱道さるゝとの爲めに、我國に於ても戰時中  
發達したる對外貿易を維持し且國內金融組織の  
完備を圖り以て戰後國力の増進を期するの必要  
より銀行引受手形制度の提唱を見るに至り、昨  
年五月大阪に開かれたる關西銀行大會に於て水  
町日本銀行副總裁の之に就て論及せらるゝ所あ  
り。爾來日本銀行に於ては米國に行員を派して

引受手形制度に就て研究を怠らず密かに其の實  
行の期を待ちつゝありしが、昨年末以來時局の  
變動より經濟界に影響を及ぼせると偶々井上正  
金銀行頭取の入りて日本銀行總裁となりしとに  
依り茲に手形引受は愈々實際上の問題となりて  
世上に喧傳せらるゝに至りしものなり。

### 二、引受手形の種類

銀行の手形引受を爲す場合は種々あるべしと  
雖も凡そ次の三種に大別することを得べし。  
(イ) 荷付爲替手形 (ロ) 商業信用手形 (ハ) 金融  
手形の三是れなり

#### A、荷付爲替手形の引受

銀行引受手形の中最も重要なものは荷付爲  
替手形引受の場合なり。蓋し外國貿易の大部分  
は荷爲替手形に依りて行はれ而して銀行引受に  
依りて最も便宜低廉に金融を得らるゝを以てな  
り。例へば英國の商人が米國より棉花を輸入せ

んとする場合に於て、英國輸入商は其の取引銀  
行に信用狀の發行を依頼し之を米國の棉花輸出  
商に送附す(電信に依りて信用の開始を報ずる  
場合もあり)。米國の輸出商は右信用狀に基づき  
英國に於ける輸入商の取引銀行宛爲替手形を振  
出し自己の取引銀行に賣却し以て棉花代金を受  
取ることとなる。而して此手形を買取りたる米  
國の銀行は之を倫敦のコールズ先に送り支拂銀  
行の引受を求めしめ、茲に此の手形は銀行引受  
手形として市場最低利率を以て自由に賣買せら  
るゝに至り、期日迄に輸入商は手形金を引受銀  
行たる取引銀行に入金し以て決済に支障なから  
しむるを以て、貿易金融は最も低廉に且極めて  
圓滑に行はれ従つて外國貿易取引の盛んとなる  
に至りしなり。

併し乍らかくの如きは英獨佛等外國爲替銀行  
の發達し且國際金融上優越なる地位にある邦國

に於て行はるゝ所にして、我國の如き今日に於ても東亞及び南洋に對しては前記の如く我國輸入商の爲めに直接手形引受を爲すを得べしと雖も、其他歐米及び印度に對しては多く倫敦の銀行に依頼して我國輸入商の爲めに手形引受を爲さしむるを常とす。我國爲替取扱銀行の間に行はれたる信用狀の發行は概ね右の如き場合にして、例へば我國の棉花商が米國より棉花を輸入すとせんか（今日實際に於ては棉花の輸入は大部分直接我國棉花商に依りて米國に於て買付けたる上行はれつゝあるを以て手形引受の起ること少きも）、我國の銀行は倫敦に於ける取引銀行宛爲替手形を振出すべき旨を記せる信用狀を發行す。米國の棉花輸出商は信用狀を受取りたる上今回は前回と異にし信用狀發行銀行にあらずして其の取引銀行たる倫敦の銀行宛爲替手形を振出し自己の取引銀行に買取を依頼するとな

り、右手形は輸入地の市場に送られずして他の市場即ち倫敦市場に流通することゝなるべし。我國に於ても從來信用狀の發行は行はれざりしにあらず今日に於て敢て物珍らしく云ふ程の事にあらざるも、從來は單に信用狀を發したるに止まり其の發行せる信用狀に基きて振出されたる手形を引受ることを爲さず、又其の手形即ち我國輸入貿易より起りたる手形は決して我國の市場に流通することなかりしなり。以上に依りて明かなるが如く荷付爲替手形の引受は二種の場合あり、即ち一は輸出商が輸入商の取引銀行に宛て振出したる手形を其の支拂銀行の引受くる場合にして、二は輸出商が輸入商の取引銀行の信用狀に依り他の外國銀行に宛て振出したる手形を其の外國銀行の引受くる場合はれなり。

#### B、商業信用手形の引受

銀行引受手形の第二は普通商業手形の引受に

して即ち荷付にあらざる信用手形(Documentary bill)に對し Clean bill と稱す)の引受なり。嚴密に言へば荷付爲替手形も商業手形なれば第一、第二の場合に共に商業手形の引受到屬すべきものなるも、荷付爲替手形の引受は常に荷物を伴ふのみならず主として外國貿易に利用せらるゝに反し、商業信用手形の引受は内國取引に利用せらるゝこと多く其の引受の精神に於ても異なる所あるに依り通常兩者を區別す。商業手形引受の場合には種々あるべきも商業手形なる以上商業取引を決済する爲めに振出されたる手形の引受たらざるべからずして、多くは(1)賣主が買主の取引銀行に宛て手形を振出し其の引受を求むる場合にして又(2)買主が賣主を受取人とし自己の取引銀行宛振出したる手形を銀行が引受くる場合もあり。何れの場合に於ても賣主は銀行引受の手形を受取り之れを自己の取引銀行又はビ

ル・ブローカーに低廉なる割引率を以て賣却し以て商品の賣渡代金を受取ることゝなるなり。

銀行の引受信用は又他の場合に於ては商人の商業資金調達に利用せらるゝこと多し。即ち銀行は其の取引先をして銀行宛手形を振出さしめ之を引受くる場合にして、手形は銀行の引受到依りて一流手形となり銀行又はビル・ブローカーに依りて低率を以て自由に割引せらるゝを以て手形振出人は容易に所要資金を調達するを得べし。而して右の方法は製造業者が其の得意先の何人なるかを表はすを不利益とするか、又は得意先宛手形を賣却するを欲せざるが如き場合に於て、其の取引銀行より現金借入を爲すよりも引受手形を利用するを利益とする場合に用ゐらるゝことあるも、其の本來の目的は商業上必要とする資金を最も容易に且低廉に調達せんとするに在りて、歐米の大貿易商の如きは外國

の中心市場に取引銀行を有し其の引受信用を利用して輸入商品決済に必要な資金を調達すること多し。かの戦争中露西亞が我國に於ける生糸買入代金決済の方法として銀行引受手形の方法に依らんとしたるが如き正に是れなり。又佛蘭西の大製造業者が合同して米國銀行より引受信用を受け原料輸入に必要な資金を調達したるが如き其の著例なり。國內に於ける商業取引が漸次現金取引となり手形を以てすることの減少するに従つて、商人は銀行より現金借入を必要とするに至るも、銀行としては現金貸付を歓迎せず従つて利率も高きを以て勢ひ商人は引受手形を利用するに至り、獨逸に於ても佛蘭西に於てもかくの如き引受手形の流通額甚だ巨額に達せりと云ふ。

以上に依りて觀れば商業信用手形の引受には二種の場合あり、一は賣主が買主の取引銀行宛

手形を振出し引受を求むるか、又は買主が賣主を受取人として取引銀行宛手形を振出し引受を求むる場合にして、二は買主又は賣主が其の取引銀行宛手形を振出し其の引受を求めて市場に賣出し所要の資金を得て支拂に供する場合なり。其の結局商業取引に用ゐらるゝは同様なるも、一は商業取引を體現せる手形なるも他は單に商業資金の調達を目的として作られたる手形なる點に於て異なれり。故に後の如き方法は往々融通の目的を以て利用せられ信用濫發の傾向ありて獨逸の如き既に問題となれる程なり。遮莫商業信用手形引受は商人が其の賣買の決済に當りて自己の信用に加ふるに取引銀行の信用をも利用し以て簡便に且低廉に決済を完了せんとするに外ならずして、元來商人が自己の信用のみに依りて賣買の決済を結了せんとするは産業組織の幼稚にして金融業の發達低き時代に

於て見る所なるも、今日の如く商業の發達著しく其の取引の擴大し且複雑となれる時代に於て、猶ほ原始的なる商人間の信用のみに依りて賣買の決済を爲さんとするは甚だ困難且不利益のことたるなり。故に内國取引に手形の流通を見る獨佛等大陸諸國に於ては早く既に銀行引受手形の利用を見たる所以なり。

銀行が引受信用を與ふるには今日行はるゝ當座貸越契約の如く手形引受契約を結び其の引受額の限度、手數料、手形支拂資金の入金方法を豫め規定し置く。又必要の場合には相當の擔保を取ることあり。

### C、金融手形の引受

金融手形は商業取引に基いて振出されたる手形にあらず單に融通を目的とするものにして、之に銀行の引受を求め他の銀行又はビル・ブローカーに賣却して資金を得るに在り。かくの如

き金融手形に内國手形と外國手形とあり。内國金融手形は多くは株式仲買人又は地方銀行等が其の取引銀行宛振出すものにして、其の宛名銀行の引受に依り市場に賣却して低廉なる資金を得るなり。獨逸の如き地方銀行が株式投機資金を調達するは多く此の引受手形を利用し其の融通額多額に上ると云ふ。其の他工業會社が一時的運轉資金又は事業經營資金の融通を目的として取引銀行宛手形を振出し其の引受を利用して所要の資金を得る場合にも用ゐらる。かくの如きもの殊に經營資金の融通の場合に於ては期限長きを以て手形は幾回も書替繼續せらるゝを常とす。次に外國金融手形は其の目的主として外國市場の低利なる資金を利用せんとするに在りて、或る國の銀行(其他金融業者)が金利の低き外國市場の銀行宛手形を振出し其の引受を求め市場に賣却して資金を調達するものにして、戰



前に於ては米國の銀行は倫敦銀行宛多額の金融手形を振出し、又獨逸の銀行は佛蘭西の銀行に宛て又露西亞の銀行家は獨逸又は佛蘭西の銀行に宛て常に金融手形を振出し低利の資金を利用しつつありき。

## 都市計畫と米國商業

### 會議所 (下)

#### 根本清 六

七

米國に於ける商業會議所の近狀は、略、既述の如くであるが、猶、この種の事業として、看過す可からざるもの、一に、ホーストン運河開鑿の件を加へて置き度い、この運河は、その完成の日に及びては、メキシコ灣頭よりホーストンに達する五十哩は、最大級の汽船をも自由に

通航せしめ得る筈であるが、もと、この地方たるや古は海洋の一部であつたものらしく、土地低濕にして沼澤は至る所にある、而も河川の水は深からずして、舟航の便だも得なかつたのである、處が、千八百七十一年政府は、當運河の整理を企畫し、河幅百呎、深水十二呎としたるが千八百九十八年政府の土地調査局は、更にこれを浚渫擴張するの必要を認め、深水の最淺を二十五呎とせんとし、その工事の一半は千九百九年に成り、深水は平均十八呎に及び、小形汽船の航行だけには毫も支障なくなつたのである。然るに、これより先き、ホーストン商業會議所は河港改築の必要を提唱し、その資料としては、主として英國マンチスター運河の事情を調査した、乃ち、マンチスターとホーストンは、その情勢頗る類似し、前年マンチスターが巨費を投じて、市の繁榮に貢献したる跡は、直ちに、取

つて以て、これに學ぶの趣旨からなのである。

其處で、千九百九年當運河擴張の工事一部成るや、會議所は河幅二百呎、深水二十五呎まで擴張の案を立てた、勿論、その費用は一小都市の負擔としては、寔に鮮小ならざる額なのである、而も、當運河はホーストン市の築港と相並びて計畫せられたるもので、今や、當市は自由港として、その面目を一新し、テキサス州の要港となり、十七條の鐵道を併呑して、これを運河と聯絡せしめ、その周圍十四州の南米貿易の府となつたのである。

ホーストンが西陲の小都邑より起りて、當面の重要都市となるに至れるは、云ふまでもなく商業會議所の力に依るものであるが、又、他の方面に在りても、オクラハマ商業會議所が市勢の興隆に致したる努力に就ては、これを特筆するの必要がある、オクラハマ市は人も知る如く

僅かに二十數年前の開起であるが、目下は七萬五千の人口を有し、特に、千九百年より千九百十年に至る間の進歩は頗る顯著なるものがある、乃ち、千九百年には一萬を出でざりし人口も、千九百十年には六萬五千の多數を示してゐるのである、從て、商業會議所會員の如きも、その初めに當りては、僅かに一千二百名の少數(註、米國の商業會議所の組織は、本邦と根本的の相違ありて米國に於ける會員なるものは本邦に於ける會議所議員選舉有權者に相當するものなり、猶詳細は別に起稿する商業會議所の研究なる拙稿に就て、これを知られたし)を有するに過ぎざりしも、その活動は決して、他の多數の會員を擁するそれに劣らなかつたのである、抑も、オクラハマが一州として認められたるは千九百七年にして、その首府もガズリーなのであつた、其處で、會議所は先づオクラハマを以てこれに代りて、首府たらしめむとし、當面の理由としては、同市の形式、内容共に州第一に改造するの必要があつたのである、乍併、ガズリー